

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	一人一人の可能性を最大限に伸ばし、明るく柔軟性があり、進んで学び、思いやりのある児童生徒を育む。
(2) 現状と課題	本校は、重度心身障害や精神疾患等を有する児童生徒が在籍しており、多様な実態を踏まえた教育課程を設定している。児童生徒一人一人の病気や障害の理解と実態把握に基づいた教育計画を作成し、適切に対応するための教員の専門性向上に取り組んでいる。また、隣接病院を含む地域の医療機関等との連携が重要である。
(3) 重点目標	1 授業の充実 2 健康で安全・安心な教育環境の充実 3 病弱教育の専門性と指導力の向上と進路指導の充実 4 センターの機能の充実と関係諸機関・地域等との連携
(4) 結果の公表	学校評価アンケートの結果と今後の取組について保護者に説明すると共に文書を配付した。また、学校評価結果を学校のホームページに掲載し、地域に発信する。

学校整理番号	特18
学校名	青森県立浪岡養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・ 病弱
自己評価実施日	令和8年2月 9日(月)
学校関係者評価実施日	令和8年2月18日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
【学校運営協議会委員】 地域商工会理事、就労移行支援事業所長、隣接病院保護者会長、町内会会長、地域交流センター館長、隣接病院長、障害者支援施設長、地域こども園長、PTA会長、本校校長

自己評価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業の充実	①児童生徒の実態に応じた指導計画の作成と活用 ②心身の状況に応じた学習参加方法の工夫と学習保障 ③個に応じた教材教具の工夫とICT・支援機器の有効活用	ICT・支援機器の活用による学習への参加方法が増え、病状や体調等の個に応じた授業が可能となった。学習保障に加え児童生徒の意欲向上にもつながった。	B	継続して授業への取組みをお願いしたい。行事等においては、前例をたどるのではなく、新しいアイデアを加えて取り組んでほしい。	児童生徒の実態や病状が幅広い現状から、可能性を最大限に引き出す工夫と教職員の高い意識が求められる。個に応じた指導のより一層の充実に向けて継続して取り組む。
2	健康で安全・安心な教育環境の充実	①児童生徒の体調管理や衛生管理の徹底 ②医療的ケアの校内体制の整備と充実 ③災害時や緊急時の安全確保のための訓練の充実と確実な連絡体制	青森病院の対応に準じ、感染症対策に継続して取り組んだことにより、感染症の集団発生を防ぐことができた。 緊急避難時に青森病院を避難場所に加えた訓練、実際の災害時を想定し、検討会を実施した。	A	災害時に率先して動ける人材の育成が必要である。その人材が複数いることが不測の事態に対応できる強みになる。	災害時や緊急時の安全確保の体制について、より現実的な避難計画の立案に向けて、隣接病院や地域との連携をさらに強化する。
3	病弱教育の専門性と指導力の向上と進路指導の充実	①校内研究の充実による実践的指導力の向上 ②ICT・支援機器の実践的研修と効果的な活用の探究 ③児童生徒の進路実現に向けた積極的な進路指導の取組	授業改善をねらいとした校内研究テーマのもと個人研究を中心に研究を行い、研究結果を共有できるようにした。 進路指導については、卒後の利用を見据え、早期の施設見学等を実施した他、本人、保護者への情報提供に努めた。	A	病棟生の体験活動等、実体験の機会が増えることよい。 進路指導については、地域の資源を更に活用していただきたい。	校内研究に継続して取り組み、授業改善及び授業の充実に生かす。 進路指導では、学習会や通信を通じて児童生徒や保護者のニーズに合う情報を提供すると共に、実習やインターンシップの機会を充実させる。
4	センター的機能の充実と関係諸機関・地域等との連携	①教育相談や校外支援要請への専門的対応 ②隣接病院との緊密な連携と連絡相談体制の充実 ③コミュニティ・スクール機能の推進と活用、地域との交流の充実	随時の教育相談や定期的の巡回相談等、地域の要請に応じた支援を行うとともに、隣接病院と緊密な連携をすることができた。 コミュニティ・スクール機能の活用のため運営方法の工夫が必要である。	B	学校所在地の町内会への働きかけは継続して行うことよい。更に地域の公共機関と連携することにより、活動内容の拡大が期待できる。 地域との連携充実に向け、新たな取り組みを取り入れてほしい。	保護者、医療機関、関係施設との連携と丁寧な対応を継続する。 コミュニティ・スクール機能を推進し、地域の人材活用、地域主催の行事への参加など体験活動の充実を図る。
(11) 総括	学校評価アンケートの結果及び学校運営協議会委員からの意見等から、今年度の重点目標については、概ね達成できたものと判断する。教職員の学校評価アンケートの結果から、学校課題に応じた研究・研修に組織的に取り組み、授業改善を継続的に行う必要がある。また、組織運営において、個々の能力発揮による役割意識の向上と組織の協働体制強化に向け、常に業務の見直しと共に働き方改革への個人の意識付けが必要と考える。					